

北  
西 東  
南

**[中部版・唐人町エリア]**

※唐人町を歩くコースは2011年に発行  
※背景の古地図は、文化財館下掲図(1810年頃、財団法人鍋島研究協会)

0 100 200 300 400 500m

※このマップは佐賀市の都市計画図を基に作成しました。



**1 唐人町** とうじんまち 佐賀市唐人一丁目・二丁目  
天正15年(1587)頃、高麗から漂着した李宗欒一族は佐賀に住み、文禄・慶長の役で道案内役を担い高麗人を連れ帰りました。城下惣構の十間堀の外に位置していますが、やがて城下に編入され唐人町・(唐人)新町・(唐人)寺町の3町が成立しました。中央大通りは唐人町筋のものであり、南北の水路も近世当時のままに流れています。

**2 鏡園寺** きやうえんじ 佐賀市唐人一丁目  
初代・鍋島勝茂の嫁付きの老女(秀島源右衛門の母・法名転管鏡円大姉)が藩に願い出て建立した唐人町唯一の寺院が、見佛山鏡園寺(浄土宗)です。墓地には高麗より渡来し唐人町に居住した李宗欒(1655年没)以下代々の墓や、鍋島更紗創始の九山道清(1647年没)の墓があります。

**3 城雲院** じやうゆんいん 佐賀市唐人二丁目(江戸時代は愛敬島村)  
秀島源兵衛が初代・鍋島勝茂に願い出て、寛永6年(1629)に城跡の地に建立したのが、龍崎山城雲院(曹洞宗)です。かつて四方を囲んでいた堀が現在も三方に残り、墓地には開基秀島氏の墓のほか、ドイツ医学を導入し日本近代医学制度の創設に大きな役割を果たした相良知安(1836~1906)の墓があります。

**4 妙念寺** みやうねんじ 佐賀市唐人二丁目(江戸時代は愛敬島村)  
初代・鍋島勝茂嫡男の忠直は、正室・恵照院との間に長男が生まれた3年後、藩主に就かず死没しました。恵照院は忠直の弟・直澄に再嫁し、遺児は恵照院付きの女中だった小倉女に養育され、2代藩主・鍋島光茂となります。小倉山妙念寺は小倉女13回忌に光茂が建立させた浄土真宗寺院です。

佐賀城下 [城下西部版]

# 佐賀城下 まち歩きマップ

佐賀藩36万石 城下町 佐賀

佐賀城下は藩祖・鍋島直茂、初代藩主・勝茂父子により慶長年間に整備された佐賀藩36万石の城府です。道路や水路によって区画された城下は、小路(くわいじょう)とよばれる武家地と町人の居住区である町によって成り立っていました。ここでは、現在でも当時の道路や水路が現役で生きており、また当時の武家屋敷の門や町屋、特徴ある近代建築など、魅力あふれる歴史スポットが点在しています。

**1 高橋** たかはし 佐賀市八戸二丁目・高瀬町大字界隈  
長崎街道の佐賀城下への西の入口にあたり、本庄江に架かる橋です。江戸時代は「扇町橋」と呼ばれ、ここを渡ると八戸町(やえまち)に入りますが、八戸が城下町に編入されるのは江戸後期になってからです。旅人の姿を一番よく眺めたこの橋も交通事情により架け替えられました。

**2 龍雲寺** りゅううんじ 佐賀市八戸一丁目  
周囲を堀に囲まれ、かつての八戸城跡の一角に建つ慶長山龍雲寺(曹洞宗)は天文元年(1532)、大用和尚が中興しました。龍造寺氏との関りが深く、開基は家康の娘です。葉隠の口述者・山本常朝や一族の菩提寺で墓石が並びます。多久茂辰の五男安輝の墓誌もあります。周囲の広い堀には、往時の城跡の面影が残されています。

**3 のこぎり型家並** のこぎりがたやなみ 佐賀市八戸町  
佐賀の城下町を走る長崎街道は、東西あるいは南北に整然と造られて、西の範囲は長瀬町まででした。江戸後期には八戸(やえ)が編入され、高橋まで地形のまま斜めに結ばれました。街道沿いに敷地に合わせて建築された家の前には、三角の余地が生まれます。これがのこぎり型家並の景観となりました。

**4 旧城下町の道標** きやうじやうまちのちしるべ 佐賀市長瀬町  
佐賀城下に現存する唯一の三方道しるべです。正面には「ながさき道、こくろみち」の文字と、方角を示した指が彫られています。さらに南側には南を指して「さざやとかいばへ」(諺早渡海場へ)と刻まれており、本庄江から船による諺早への海路がわかります。長瀬町西端の三差路のこの位置が、長崎街道の陸路と有明海の海路が分岐する地点でした。

**5 本庄神社** ほんじやうしんじや 佐賀市本庄町  
本荘定矩大明神ともいわれ、祭神は興賢神社・止日女神社と同じで、創建は古代まで遡ります。本庄を拠点とした鍋島氏の崇敬が厚く、慶長8年(1603)銘の肥前鳥居(県指定重文)は鍋島直茂の寄進で、拝殿前の大型石灯籠一对(市指定重文)は元和4年(1618)鍋島忠茂(直茂二男)の奉納です。

**6 道祖元町歴史的建物群** さやまとまらけしきたてきたてものん 佐賀市道祖元町  
道祖元町は興賢神社参道沿いに成立し、承応3年(1654)の絵図には37軒の竈数が記されています。幕末には105軒に増加し、明治以降は佐賀経済を牽引した深川・伊丹一族の屋敷や社屋が境内もありました。明治期の街並み、専修寺・道祖神社の静かな環境と天祐寺川の風情が相俟った魅力的な歴史的景観が楽しめます。

**7 長瀬町** ながせまち 佐賀市長瀬町  
初代・鍋島勝茂が慶長年間に城下町をつくらせた際、城北の郊外長瀬村(高木瀬)に住んでいた初代肥前忠吉をはじめとする刀鍛冶などを移住させたのがはじまりです。鍛冶師や鋳物師が多く住み、城下絵図には橋本近江や橋本左伝次など刀鍛冶の屋敷名が記されています。長崎街道沿いの城下町西部の交通上の要地でした。

**8 天祐寺** てんゆうじ 佐賀市多布施三丁目(江戸時代は多布施村)  
龍造寺隆信の孫・高房の菩提を弔うため、藩祖・鍋島直茂により元和元年(1615)に建てられました。曹洞宗八ヶ寺のひとつで、藩主であれ門下乗の格式が与えられていました。大財村の清心院とならび城下外堀(十間堀)の北側に位置し、周囲を堀で囲まれ、かつての出城跡に建立されました。石井鶴山・田中儀右衛門の墓もあります。

**9 六座町** ろくざまち 佐賀市六座町  
藩祖・鍋島直茂が天正年間に蛸久から伊勢社などを移し、蛸久の商人を町人頭として最初に城下町づくりを手した四つ町の(六座町・伊勢屋町・中町・白山町)のひとつです。長崎街道沿いに東西にのび、町名は「穀物産・木工産・金銀産・縫工産・煙硝産・鉄砲産」(ほかには朱漆産・油産・金産とも)の六座に由来するとされています。

**10 北面天満宮** ほくめんてんまんぐう 佐賀市六座町  
藩祖・鍋島直茂が蛸久天満宮の下宮を天正19年(1591)に遷座したと伝えられています。北を向いているため北天満宮ともいいます。享保9年(1724)銘の楼門には河童の木像が祀られています。現在の神殿は貞享3年(1686)、拜殿は元禄15年(1702)に改築されたもので、肥前鳥居には明暦4年(1658)の銘があります。

**11 本行寺** ほんぎやうじ 佐賀市西田代一丁目  
永正15年(1518)、龍造寺胤家により建立された、城下では珍しい法華宗(日蓮宗)寺院で、山号は常住山、開山は日政上人。寺宝として本彫毘沙門天立像(佐賀市重要文化財)があります。境内では初代・鍋島勝茂四男の直弘に始まる白石鍋島家(佐賀藩親類)の墓所、武將で治水の神様成富兵庫茂安や江藤新平の墓などがご覧になれます。

**12 肥前びどろ** ひぜんびどろ 佐賀市道祖元町  
幕末に設置された精煉方(理化学研究所)の流れを汲む精煉社でのガラス製造に従事した副島源一郎が独立して始め、明治36年(1903)からこの地で生産しています。型を用いず息の吹き込みで整形する宙吹き技法は、日本独特の技法として貴重で、市重要無形文化財に指定されています。



**お願い**

このまち歩きマップは、佐賀城下の歴史や文化、景観などを歩きながら学び、楽しんでもらうためのものです。まち歩きの際は、無断で個人宅の敷地内に立ち入ったりすることがないようにマナーを守りましょう。

**【凡例】**

● 恵比須像  
○ 寺院  
□ 神社  
▲ 武家屋敷  
◆ 伝統的町屋  
■ 近代建築  
● 史跡・旧跡等

● 西田代小路 江戸時代の小路(武家地)  
● 小堀の一部のみを示した  
**長瀬町** 江戸時代の町名(町人地)  
● 旧長崎街道

※小堀名、町名およびその範囲は、天文5年(1740)の佐賀城下絵図および城下大内儀屋敷(ともに公益財団法人鍋島研究協会所蔵)に準じ、部分的に現在の通称を用いた。  
※このマップは佐賀市の都市計画図を基に作成しました。

0 100 200 300 400 500m

**13 泰長院** たいちやういん 佐賀市与賀町  
三陽山泰長院(臨済宗)は天文5年(1536)、龍造寺隆久により城下に建立されたのが始まりで、のちに現在地に移りました。3世立球大和尚は文禄・慶長の役で藩祖・鍋島直茂に同行し、朝鮮との講和でも活躍しました。これらの歴史を物語る泰長院文書は県重文に指定されています。かつての塔頭は現在は墓地となっています。

**14 伊勢神社** 佐賀市伊勢町  
伊勢の皇大神宮の分霊を祀った神社で、もとは蛸久にありましたが、藩祖・鍋島直茂が世嗣の誕生を祈願して伊勢松(初代・鍋島勝茂)を得たため、天正19年(1591)現在地に建立しました。信仰圏は広く、藩領以外の大村・平戸・五島・岐枝・対馬などからも季節ごとの参詣が続けられました。

**15 幕末期産業遺産群** 幕末産業遺産群(築地反射炉跡・多布施反射炉跡・精煉方跡)  
初代・鍋島勝茂以降、福岡藩と隔年交替で長崎港の警備を担っていた佐賀藩は、幕末の10代・鍋島直正の代に警備充実のため藩独自で砲台を増築しました。それに伴い、嘉永3年(1850)~嘉永5年(1852)にかけて、職人町である六座町・長瀬町に近い場所に建造した大砲製造施設が築地反射炉です。嘉永6年にはペリー来航を機に、江戸湾防備用に幕府が佐賀藩に発注した大砲製造のための多布施反射炉を建造しました。その一方で、佐野常民を主任とする精煉方が嘉永5年に発足し、理化学研究所として藩外の優秀な学者・技術者を招いて研究開発を行いました。幕末佐賀藩の科学技術力を物語る史跡で、日本近代化を推進した地です。築地反射炉跡には反射炉モニュメント、多布施川沿いには2つの記念碑があります。

